

[ 別紙 2 ]

審査の結果の要旨

氏名：李志偉

本研究は、これまでの研究では十分に把握されていなかった東台湾における急性心筋梗塞患者の性別及び年齢別の危険因子の特徴や、危険因子に対する第二期、第三期運動療法の効果を明らかにしようと試みたものである。本研究結果は、東台湾における急性心筋梗塞患者の危険因子を国際的に比較する事により、急性心筋梗塞患者の発症及び再発予防に貢献できるものである。また、台湾では急性心筋梗塞後の第二期監視型外来式運動療法はほとんど行なわれてなく、また生活習慣変容教育などを含めた第三期非監視型在宅運動療法の評価も台湾で初めての試みである。結果は下記の様であった。

- (1). 東台湾における急性心筋梗塞患者の性別、年齢別の危険因子の特徴がよく示された。その中で、女性急性心筋梗塞群では、男性に比較して平均年齢が高い傾向にあり、糖尿病既往歴及び喫煙と強い関連があることが示された。
- (2). 男性若年急性心筋梗塞群では、対照群に比較して、BMI 値、総コレステロール及び中性脂肪が高く、HDL コレステロールは低いことが示された。
- (3). ロジスティック回帰分析の結果、喫煙習慣、HDL コレステロール低値及び総コレステロール高値は男女別に関わらず共通の独立冠危険因子であった。今後の心筋梗塞一次予防のために重点的に対応すべき冠危険因子が明らかにされた。
- (4). 薬物治療の下で、第三期非監視型在宅運動療法では心事故がなく、運動継続性を向上させた。また、運動耐容能及び禁煙など第二期監視型外来式運動療法効果を維持できるのみならず、HDL コレステロールを有意に増加したことが明らかになった。
- (5). 第三期非監視型在宅運動療法は、第二期監視型外来式運動療法の延長といえることができ、安全、有効、便利且つ経済的な方法であり、今後提唱されるべきものである。

以上、本論文は東台湾における急性心筋梗塞患者の冠危険因子及び運動療法の及ぼす効果についての貴重な基礎資料となるもので、今後台湾における虚血性心疾患の診療に資するものであり、学位の授与に値するものと考えられる。